

## 神の国の計算方法

### ルカ15:1~10 / 李正雨師

今日の福音書では、数字と数え方が出て来ます。羊100匹と1匹、ドラクマ銀貨10枚と1枚です。イエス様はこのたとえを通して、神の国の計算はこの世の計算方法と違うということを教えられています。この世の計算は、数値的な計算、データを数で表すことです。そして、その計算によって何が大きくて、何が小さいかを示し、人々は示された数字に値を付けることもあります。つまり、示された数字を通して、何が価値があるのか、何が得なのかが分かるというのです。しかし、神の国の計算方法はそうではありません。大きいもの、小さいものが求められますが、価値と得に焦点が合っているではありません。場合によっては、小さなものが大きなものよりも貴重に思われることもあり、小さなものために危険を冒すこともあります。今日の福音書はこのこと、神の国の計算方法について私たちに教えています。そして、この計算方法は、私たちが信仰の人として学び、身につけなければならないことだと思います。今日の福音書1-2節の言葉を読みましょう。「**徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、『この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている』と不平を言いだした。』**」

今日の福音書に登場している人々は、徴税人と罪人、ファリサイ派の人々と律法学者たちです。彼らの生活はそれぞれが違い、社会的な地位も違うと思いますが、彼らを大きく2つのグループに分けることはできると思います。一つのグループは社会的に認められているグループであり、もう一つはそうではないグループです。当時のファリサイ派の人々と律法学者たちは、多くの人々に認められていたグループです。律法主義の社会で誰よりも一生懸命律法を守り、研究した人たちであったため、人々は彼らを尊重しました。一方、徴税人と罪人たちはそうではありませんでした。おそらく徴税人というグループは、当時のユダヤだけでなく、世界歴史的にも多くの人々に愛されていなかったでしょう。さらに、他の国から支配されている状況だったら、徴税人を歓迎する人はいなかったでしょう。いつも支配されていた民族には、過度な税金が課され、徴税人はこの過度な税金を集めた人々だったからです。罪人たちも徴税人と同様の立場だったでしょう。罪を犯した人は、誰にとっても警戒の対象になるからです。また、律法主義の社会での罪は、将来神の裁きを受ける人々であったからです。それで、この徴税人と罪人たちがイエス様に近寄って来ると、ファリサイ派の人々と律法学者たちは不平を言いました。民族に過度な税金を集める人々と神の裁きを受ける人々を歓迎する人は、一人もいませんでした。

するとイエス様は、たとえを通して教えられます。今日の福音書のたとえは、このたとえの中で2つです。そして、このたとえは二つとも無くしたものに焦点を当てています。まず、見失った羊のたとえを見ましょう。4節の言葉です。「**あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。**」皆様はこの4節の言葉の中で気になることはありませんか。私は、このたとえの中で野原に残した99匹の羊のことが気になっています。もちろん、強調のためのたとえとして、イエス様がこう言われた可能性があると思います。しかし、見失った羊1匹を探すために99匹の羊を野原に残して、危険にさらす羊飼いのたとえは適切ではないとも思います。そのためか、ある神学者は過去のパレスチナの羊飼いのことを研究して、新しい解釈を出しました。一般的に当時の羊飼いは、約20~30匹の羊を飼ったそうです。それで、羊が100匹であれば、その羊を飼っている人々はチームを成していたかもしれません。それによって99匹の羊を野原に残すことができたという解釈です。私はこれを聞いてフレッシュな考えだと思いました。しかしすぐに「それならこのたとえの強調する主旨とは合わない」と思いました。なぜなら、このたとえは、99匹の羊を野原に残すほど、失われた1匹に夢中になっている羊飼いを描いているからです。それでは、私たちは野原に残された99匹の羊のことをどのように受け入れたらいいのでしょうか。羊飼いが野原に残すことができるほど、素直な羊だったと思っただけいいのでしょうか。それとも、それほど羊飼いと99匹の羊は、互いに信頼する関係であったと受け取ったらいいのでしょうか。

いろいろな面でこのたとえについて考えてみましたが、ひざをポンと打つほどの考えは出ませんでした。それで私は、これが単に数字や計算に関するものではないと思いました。計算をしてみると、失われた1匹より

も残っている99匹がより重要だからです。そして数字を頭の中から除いてこの言葉を読んでもみると、この言葉が理解され始めました。私が軍隊にいたとき、すねをひどく傷つけられたことがあります。血もたくさん出て、今も縫った傷の跡が残っています。すねを傷つけてから医務隊に行きましたが、当時の医務隊には麻酔剤がありませんでした。当然、別の医務隊に行くべきでしたが、あいにく雪がたくさん降り、移動することができませんでした。それで、麻酔なしにすねを縫いましたが、どれほど痛かったのか今も生々しく覚えています。

ところが、今、傷跡を見ると、そんなに大きくありません。1円だまより小さいです。しかし、当時はあまりにも痛かったので、すべての神経がすねに集まっていました。私は、これが一匹の羊を見失った羊飼いの心のように思います。単純な数字や計算で解決できるものではありません。あまりにも辛かったので、すべての精神がその一匹に集まっているのです。だから羊飼いは見失った一匹を見つけ出すまで探し回ったのであり、見つけたら、喜んでその羊を担いで、みんなに喜んでくださいと言ったのです。その羊飼いの心が今日の福音書7節によく現れています。「**言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。**」99匹が失われた1匹より重要ではないという言葉ではありません。失われた一匹を見つけた喜びがそれほど大きい感激だということです。

この言葉は次のたとえでもっと強調されています。次のたとえは、無くした銀貨のたとえです。このたとえに出てきた女性は、ドラクメ銀貨10枚の中の1枚を無くしました。そしてその一枚を探すためにともし火をつけ、家を掃き、見つけるまで念を入れます。ここでこのドラクメの価値はデナリオンと同じだそうです。そして1デナリオンは、当時の労働者の一日の賃金でした。1ドラクメの価値も同じように一日の賃金だったでしょう。この1ドラクメは、絶対に少ないお金ではありません。しかし、もしこの1ドラクメを持っている人に数万、数十万のドラクメがあったら、果たしてその人は、この1ドラクメを探すために最善を尽くして家を掃き、見つけたのでしょうか。ある程度探してやめてしまったでしょう。しかし、この銀貨10枚に大きな意味があったら、どうだったでしょうか。

当時のユダヤ社会では、夫が妻を迎えた時、愛の証としてドラクメ銀貨10枚を与えたそうです。今、私たちが結婚指輪をはめているのと同じです。すると妻は、10枚のドラクメを縫って、ヘッドバンドのように額に巻いたそうです。この銀貨10枚は、結婚しているという証でもあり、夫の愛の証でもあったのです。もしこの10枚の中の1枚でも失ってしまうと、夫に忠実ではなかったと思われました。それで、たとえでの女は、無くしたドラクメを見つけたとき、友達と隣人を呼び集めて「一緒に喜んでください」と言ったのです。イエス様がこの10枚のドラクメについて語られたとき、その場にいた人々は、女の10枚のドラクメがどんな意味を持っているかは知っていたでしょう。そしてイエス様は10節の言葉を言われます。「**言うておくが、このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある。**」

数字に価値がつけられているこの世で生きている私たちにとっては、今日の福音書は理解しにくいものかもしれません。しかし、神様は数字や計算ではない愛を私たちに表し、私たちもその愛に従って生きていくのを願っておられます。この世では、失われた一つよりは残りの99をもっと大切に思います。これが私たちの社会では合理的であるからでしょう。しかし、神様は失われたものを取り戻すこと、その小さな一つのことを大切に思われています。なぜなら、神の国では、その一つが百の一つではないからです。使徒パウロはコリントの信徒への手紙一12章26-27節でこう言います。「**一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。**」神の国では、一つは百、百は一つです。一つがなくなったら、全体がなくなることと同じです。これが神の国の計算方法であり、この世でただ教会だけがこのような計算方法で生きることができると思います。小さなもの一つも、大切に思ってください。私たちの中で失われることがないようにしてください。この教えがいつも皆様と共にありますように。私たちの教会がこの世の教えではなく、主の教えに従いますように、主の御名によって祈ります。アーメン